

地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは、2009年度に国が制度化した取り組みで、人口減少や高齢化などの課題を抱える地域が、都市部などの地域から人材を受け入れ、地域活性化に貢献してもらうという仕組みです。

現在、全国の約1100自治体で導入され、約800人以上の隊員が活動し、地域の可能性を探りながら奮闘しています。

丹波篠山市においては、4月から3人の地域おこし協力隊が市内に移り住み、総勢9人の隊員が地域活性化のための取り組みを開始しています。

隊員の活動期間はおおむね2年から3年。市では、これまで51人が活動してきました。隊員の約7割が20歳代から30歳代、約4割が女性です。任期終了後（卒業後3年間）も約7割が市内に定住し、起業や就業を通じて、地域との関りを続けています。

丹波篠山市では「起業支援型（※1）」と「半学半業型（※2）」の2つの活動形態を設けています。隊員は

自身の起業や研究に取り組みとともに「まちづくり協議会」と連携して、地域づくりに取り組んでいます。

（※1）地域資源を活用し、その成果を地域に還元することをめざした起業に挑戦します。（週5日勤務・最大任期2年）

（※2）現役の大学生や大学院生を対象。地域活動を行いながら、地域課題の解決や新たな価値創造につながる調査研究を行います。（週3日勤務・最大任期3年）

市内の新規協力隊員の推移

年度	隊員数
2014	4人
2016	3人
2017	4人
2018	1人
2019	4人
2020	2人
2021	3人
2022	8人
2023	3人
2024	10人
2025	6人
2026	3人



INTERVIEW | 着任1年目となる協力隊の皆さんにお話をうかがいました

東京やカナダなどで料理を修業し、大阪でフランス料理店を22年間経営してきました。丹波篠山には野菜の仕入れでよく来ており、食べ物の魅力にひかれて、地域おこし協力隊に応募しました。まずは、地域に貢献するために「こども食堂」を開設し、地元の野菜を使った洋風総菜を提供したい。そして、子どもたちには栄養面だけでなく、心も豊かになってほしいと思います。また、近所の農家から畑を借りているので、自分でつくったものが提供できれば

おもしろいですし、将来的には料理が自慢の宿泊施設がオープンできればうれしいです。

えんどうともひろ
遠藤友啓さん
2026年～（活動期間2年）
（西紀北地区担当）

これまで飲食の提供や、植物や農作物を生産する仕事をしてきた中で、今度は届ける側になりたいと考えていました。その時、地域おこし協力隊の制度を知り、妻が丹波篠山で一時働いていた縁で大阪から移住しました。目標は、地域食材を使ったスープ店をオープンさせること。そのため、メニューの開発に取り組んでおり、夏にはイベントへの出展ができればと考えています。スープは手軽に食べられ、栄養補給ができる食事だと思います。スープを飲んだ人が少しでも元気になり、明るい気持ちになれるよう、がんばりたいと思います。

しまぶくろ
島袋てつさん
2026年～（活動期間2年）
（雲部地区担当）

大阪で家事代行サービス会社を経営し、食事のサポートにも多く取り組んできました。丹波篠山市を訪問したとき、黒豆味噌がおいしくて大変感動しました。味噌づくりや発酵文化により深く関わりたいと思い、地域おこし協力隊に応募しました。丹波篠山では黒大豆は有名ですが、黒豆味噌をまだ知らない方も多いため、県外の方にも広く知っていただけるよう活動していきたいです。まずは、木桶を使った味噌づくりに挑戦し、販売にも取り組んでいく予定です。また、住んでいる古民家の裏にある味噌蔵を改修し活用していきたいと考えています。

はたきょうこ
畑恭子さん
2026年～（活動期間2年）
（八上地区担当）

丹波篠山市の地域振興や課題解決に取り組む地域おこし協力隊。丹波篠山市では平成26年度から受け入れを始めています。今回は、それぞれの地域で自らの経験と地域の魅力を生かした活動に取り組んでいる協力隊の皆さんを紹介いたします。

問い合わせ

創造都市課 ☎ 552-5106
地域振興課 ☎ 552-5112

地域おこし協力隊を受け入れてきた地域の声!



大芋活性化委員会
事務局長 **江坂道雄**さん

大芋地区では、2014年から「地域おこし協力隊」の制度を利用して、これまで5人の協力隊員を受け入れてきました。当時、多紀地区にあった3小学校(福住・大芋・村雲)の統合について協議が開始され、都市部の方も一緒に地域の在り方を考えてもらおうと、受け入れが始まりました。1期目は、当時神戸大学の学生であった瀬戸大喜さんと、瀬戸さんを受け入れたことで、神戸大学の学生が直接農家から営農を学ぶ「実践農学入門」を受け入れることができました。隊員が地域に入ることによって地域が元気になり、多大な影響を与えてくれることが分かり、引き続き協力隊員を受け入れていくきっかけとなりました。

中でも、2022年に着任された加藤俊希さんは、空き家対策に取り組みられ、卒業後に大芋地区独自の空き家相談窓口「YAMORI(ヤモリ)」を立ち上げ、移住者の増加につなげてくれました。地域おこし協力隊員が活動することで、地域の魅力を発掘し、発信してくれるという相乗効果が生まれました。そして、この10年間に38組・86人の方が大芋地区に移住されるという人の動きを生み出すことにつながりました。そういうきっかけを与えてくれた地域おこし協力隊に感謝しています。

地域おこし協力隊の活動が見られます

地域おこし協力隊員の活動やイベントの情報をホームページやインスタグラムで見ることができます。ぜひ、ご覧ください。



令和9年度地域おこし協力隊 受け入れまちづくり協議会を募集中

- 受け入れ期間**：令和9年4月1日から
※年度単位で委嘱し、活動状況・実績等を勘案し、起業支援型は最長2年まで、半学半地域型は最長3年まで延長します。
- 応募要件**
 - ・コーディネーターとともに協力隊員の活動を支援することができ、協力隊員とともに地域の課題解決に向けて取り組む意欲があること
 - ・令和9年4月1日時点で、受け入れ中の協力隊員がいないこと
 - ・地区内に協力隊員の活動拠点(住居兼可)を準備できること
 - ・協力隊員の活動や生活の相談に応じることができる者を選任できること
- 応募方法** 申込書に必要事項を記入の上、6月30日(火)までに、下記まで提出してください
 - ・申し込み・問い合わせ
(一社)丹波篠山キャピタル谷垣・河川
TEL・FAX 506-2366/メール chiikiokoshi@tscapital.jp

2024年から2026年までの2年間、地域おこし協力隊として活動してきました。きっかけは、農業をやりたいと思ったからです。ただ、農業を営む上で一次産品(栽培)だけでなく、加工品(加工・販売)も合わせてやりたいとの思いがあり、特産品が数多くある西紀北地区を選び移住しました。そして、地域の顔に覚えてもらえるよう地域内をランニングしたり、地域活動にも積極的に参加したりしました。

2年間の活動では、農業者の高齢化に伴い放棄農地が増えていたことから、農地の管理や活用に取り組み、丹波栗やお茶、サツマイモなどを栽培し、現在は2町の農地を管理しています。移住者の私に任せたださっている地域の方に感謝しています。また、サツマイモは学校給食に提供、お茶は草山晩茶(加工食品)として販売しています。今年6月に行われる「オーガニックライフスタイルEXPO WEST IN 京都」に出展し、お茶をアピールできればと考えていますし、製品をふるさと納税の返礼品にしたいと思っています。このほか、空き家対策として、集落にある空き家を整備し、移住希望者などを呼び込んでいければうれしいです。今後も、この地域が、元気になるよう全力で取り組んでいきます。



まつもとしゅう
松本修さん
元地域おこし協力隊
(西紀北地区担当)



元協力隊として活動に従事し、任期後も市内で活動されている松本修さんと、着任2年目を迎えた松原みのりさんと河田順子さんにお話をうかがいました。



私(松原)は、日々誰かのために頑張られている女性が多い、アーユルヴェーダ(※3)を通して、心と体が休まり、自分にも周りにも優しくなれるような温かい場所を作りたいと思っていました。城北地区での活動も同じ思いで、玉水会館で、お母さん世代が気兼ねなく集える場「ほっとカフェ」(毎月第4木曜日13時30分~16時)や、ヨガとアーユルヴェーダに触れる会(毎月土・木曜日)を開催しています。

私(河田)は、さまざまな人が交流できる場をつくりたいという思いがありました。人はコミュニケーションが不足すると孤独を感じ、心身に悪影響を及ぼすことがあるからです。これ

まで、おしゃべりをしたり、料理を提供したりすることができた活動拠点を探してきました。そして、今田地区で誰もが集える場「みななかふえ」(毎月第2水曜日10時~)を立ち上げ、5月13日にオープンしました。

また、4月20日には、河原町通りに、私たち2人の新しい集いの場をオープンしました。お店は地元の鹿肉と野菜料理、日本酒を提供するお店「Soyoko(ベジエド)」と、アーユルヴェーダのマッサージサロン「種里(シユリ)」です。これから、いろいろな方に来ていただき、いろいろなつながりが生まれる、そんな集いの場になればうれしいです。



まつばら
松原みのりさん(右)
(城北地区担当)

かわだじゅんこ
河田順子さん
(今田地区担当)



(※3) インドの伝統医学で、健康に幸せに長生きする健康法。日本ではリラクゼーションという立位置で、近年マッサージサロンが増加している